

## 「個別最適な学び」をどう受け止めるか

2021（令和3）年1月26日、中央教育審議会は第127回総会において「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）を取りまとめた。それに先立って、2018（令和元）年から経済産業省が展開している「未来の教室」実証事業において「学びの個別最適化」が提唱されてきた。前者では従来の「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念として「個別最適な学び」を定義しており、後者では「居場所や学年や時間の制約を必ずしも受けず、「自分の個人目標と選択をもとに」「多様な内容を」「多様なペースで」「個別に、時に協働的に」「能動的に」学ぶ」ことを「学びの個別最適化」としている。「個別最適な学び」「学びの個別最適化」は一見するとこれまでの教育を変革・革新していくもののように思われる。一方、COVID-19のいわば外圧によって、これまでの教育のあり方を十分に反省することなく、GIGAスクール構想が一挙に実現されようとしている。そして、学問的にも実践的にも十分な吟味がなされない状況で、「個別最適な学び」という新たな課題に真摯に取り組もうとする学校現場には不安が広がっている。第24回研究集会では、「個別最適な学び」をどう受け止めるか、教育工学、教育心理学、教育方法学・授業研究のそれぞれの立場から発表いただき、「個別最適な学び」を批判的かつ建設的に検討し、これからの教育実践を子どもたち一人ひとりにとってより良きものにしていく手がかりと方向性を探りたい。

日時 2021年6月12日(土) 13:00～16:00

場所 オンライン開催

コーディネーター 草原和博(広島大学)

藤江康彦(東京大学)

司会者 的場正美(東海学園大学)

提案者 小柳和喜雄(関西大学)

「個別最適な学び」の設計と運営と実践のアルゴリズム

鹿毛雅治(慶應義塾大学)

人の多様性、多面性と授業

田上 哲(九州大学)

「学ぶ」ということ：個の内と外の弁証法

### 申込方法

参加には申し込みが必要です。学会ウェブサイトの申し込み窓口

(<https://www.nasem.jp/>)にて必要情報をご記入ください。(締切6月10日)

開催前日に、メールでZoomのリンクをお知らせします。

最新情報は、学会ウェブサイトにもアップしますので、ご確認ください。

※本研究集会は公開で開催いたしますので、会員以外でも関心をお持ちの方に広くお声がけください。なお、本企画への参加は無料です。

お問い合わせ先：日本教育方法学会事務局

〒739-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1

広島大学大学院人間社会科学研究科(教)

教育方法学研究室気付

hohojimu@riise.hiroshima-u.ac.jp